

# 全国の林業大学校における人材育成の比較

信州大学農学部 4年 原田健司 ほらだけんじ

## 要旨

全国各地で林業大学校の開校が相次いでおり、今後も北海道や奈良県など各地で開校を目指した動きが見られます。この林業大学校は林業の就業前教育機関として、自治体や国だけでなく林業事業体等からも期待されています。

一方で林業大学校には学校の設置基準が存在せず、教育内容や修業年数および施設・設備等が各校で異なっています。こうした現状の中、林業大学校の実態を全国的に調べた研究は、まだありません。そこで、全国の林業大学校を調査し、分類しました。

## はじめに

近年、林業短期大学校等（以下、「林業大学校」とよぶ）の林業の就業前教育機関の開校が全国各地で相次いでいます。学校数は2008年の5校から2018年には17校まで増加し、2018年現在も各地で開校を目指した動きがあります。こうした林業大学校での労働者育成に対して自治体だけでなく林業事業体等も期待しています。また林野庁も2013年度から「緑の青年就業準備給付金」事業を開始し、学生を支援しています。

一方で、林業大学校は高校や大学と異なり学校の設置基準がないため、その運営体制や教育内容はさまざまです。これに関して千代ら（2016）は、実習内容や実習設備に対する学生の満足度には、学校間で差異があると指摘しました。しかし、これまで林業大学校での労働者育成の実態について全校を網羅的に調べた研究はありませんでした。そこで、全国の林業大学校を調査しました。その上で林業大学校の多様性の意義を明らかにし、林業大学校での労働者育成について評価しました。

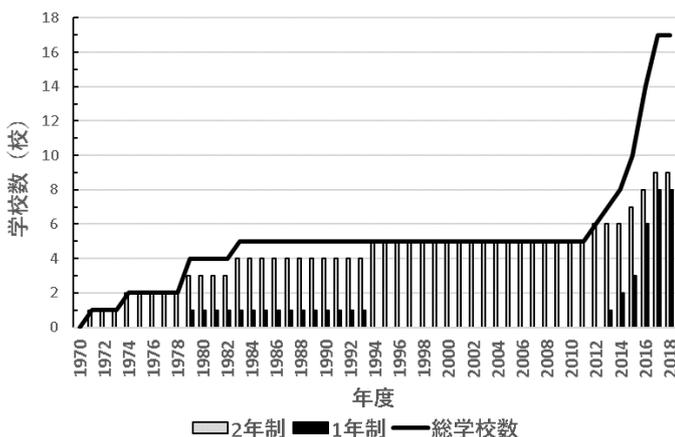


図 1. 林業大学校の学校数変化

注：各学校の学校沿革を基に作成

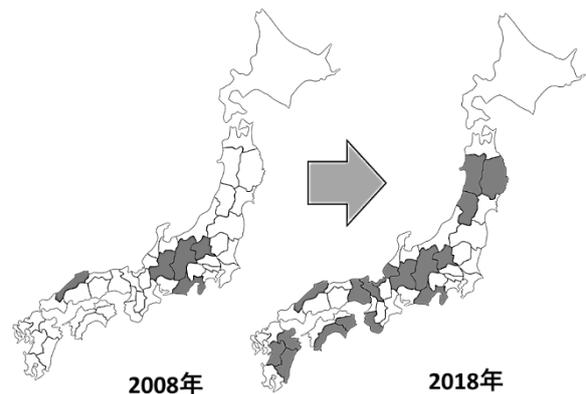


図 2. 林業大学校の分布変化

注：各学校の開校年を基に作成

## 1 調査対象と方法

林野庁の資料によれば、全国の林業大学校は現在 17 校（秋田・岩手・山形・群馬・長野・静岡・岐阜・福井・京都・兵庫・和歌山・徳島・高知・島根・熊本・宮崎・大分）です。これらの学校に対して、学校の運営体制や教育内容、学生の進路などについて聞き取り調査を行いました。

表 1. 調査対象校一覧

地域	都道府県	学校名	地域	都道府県	学校名
東北	秋田	秋田林業大学校（愛称）	近畿	京都	京都府立林業大学校
	岩手	いわて林業アカデミー		兵庫	兵庫県立森林大学校
	山形	山形県立農林大学校		和歌山	和歌山県立農林大学校
関東	群馬	群馬県立農林大学校	中国	島根	島根県立農林大学校
中部	長野	長野県林業大学校	四国	徳島	とくしま林業アカデミー
	岐阜	岐阜県立森林文化アカデミー		高知	高知県立林業大学校
	静岡	静岡県立農林大学校	九州	熊本	くまもと緑の新規就業者研修
	福井	ふくい林業カレッジ		宮崎	みやざき林業青年アカデミー
			大分	おおいた林業アカデミー	

## 2 結果と考察

### (1) 林業大学校の多様性

教育内容に関しては、森林教育や一般教養など一部の学校で行われている科目と、造林・生産・林業土木・経営・木材等のすべての学校で共通して行われている科目があることが分かりました。教育設備や実習環境に関しては、演習林や高性能林業機械の保有に関して各校で差異が見られました。教育形態に関しては、専攻学科・課程を有する学校や他大学の講義を履修可能な学校、専任講師を配置する学校などが見られました。

教育形態は学校ごとにいくつか共通点が見られ、発生史から整理すると、「農大型」「農大革新型」「研修型」「高度研修型」の4つの形態に分けられます。農大型は、農業大学校教育に準じた2年間の教育機関です。農大革新型は、専攻学科の設置や大学の講義の履修など農大型の教育体系に、特色を付加した2年間の教育機関です。研修型は、短期間で林業労働者育成を行うことに重点を置いた1年間の研修機関です。高度研修型は、研修型を2年間または基礎課程1年＋専攻課程1年にするすることで、より専門性の高い研修を行える環境を整備した研修機関です。このように現在の林業大学校の教育形態は多様であるといえます。

### (2) 多様性の意義と課題

林業大学校の教育形態が多様化したことにより、新たに1年制の学校ができました。これによって既卒者は、「緑の雇用」事業だけでなく林業大学校での業前教育を選択することが可能になりました。また、専門課程の設置や教育体制の整備された学校ができたことによって、学生は外部機関へ進学等しなくても、専門性の高い教育や研修を受けることが可能になりました。このように林業大学校の学校数が増加し、教育形態が多様化することによって、既卒者の研修機会の拡大や学校での教育や研修の専門性の向上などがおこり、林業労働者育成に大きな変化をもたらしました。この点が林業大学校の多様性の大きな意義であると考えられます。

一方で、林業大学校全体としては、講師や実習地の確保などの課題を抱えており、現状各校の教育環境が十分であるとは言い切れません。林業大学校の教育内容や教育環境などに最低限の基準を設け、教育体制を整備することが必要です。そのために、林業大学校単独ではなく関係機関との連携を行うことが重要です。

## おわりに

今回の研究に協力いただきました17校の林業大学校の職員ならびに先生方に感謝申し上げます。

表 2 各林業大学校の概要

(年、人、%)

類型	学校	学校概要			運営者 <sup>1)</sup>		教育体系	実習環境 <sup>2)</sup>		学生関係				進路 <sup>4)</sup>				
		開校年	修業年数	専修学校	府県	外部機関	コース制	演習林	林業機械	入学定員	充足率	属性 <sup>3)</sup>		事業体	木材関連	公務員	専攻課程	外部進学
												県外者	既卒者					
農大型	A	1979	2	○	○		○	△		20	100			○	○	○		○
	B	1983	2	○	○			○		20	60			○	○	○		○
	C	1994	2		○		○	△	○	10	100			○	○			
	D	1999	2	○	○					10	90			○	○	○		○
	E	2016	2	○	○				○	10	80			○				○
	F	2017	2	○	○				○	20	100			—	—	—	—	—
農大革新型	G	2001	2	○	○		○	○	○	20	100			○	○	○	○	○
	H	2012	2		○		○	△		20	60	○		○	○	○		
高度研修型	I	2015	2		○			△	○	18	100			○				
	J	2015	1		○					20	110		○	○	○		○	
研修型	K	2013	1			○				15	47		○	○	○			
	L	2014	1		○			△	○	10	80		○	○				
	M	2015	1			○				20	110		○	○	○			
	N	2016	1			○				20	65		○	○				
	O	2016	1			○			○	10	60		○	○				
	P	2017	1		○			△		10	50		○	○				
	Q	2017	1					△	○	18	100		○	○				

注：1)外部機関は林業労働力確保支援センター等へ運営を委託している学校をさします。2)演習林の「△」は演習林に準じるような、日常的に利用する森林がある場合をさしています。3)在学生の構成のうち、半数以上の割合を占める属性を「○」としました。4)専攻課程は別の学科等に進学する者を表します。外部進学は大学等に進学する者を表します。兵庫は卒業生を出していないため「—」としています。

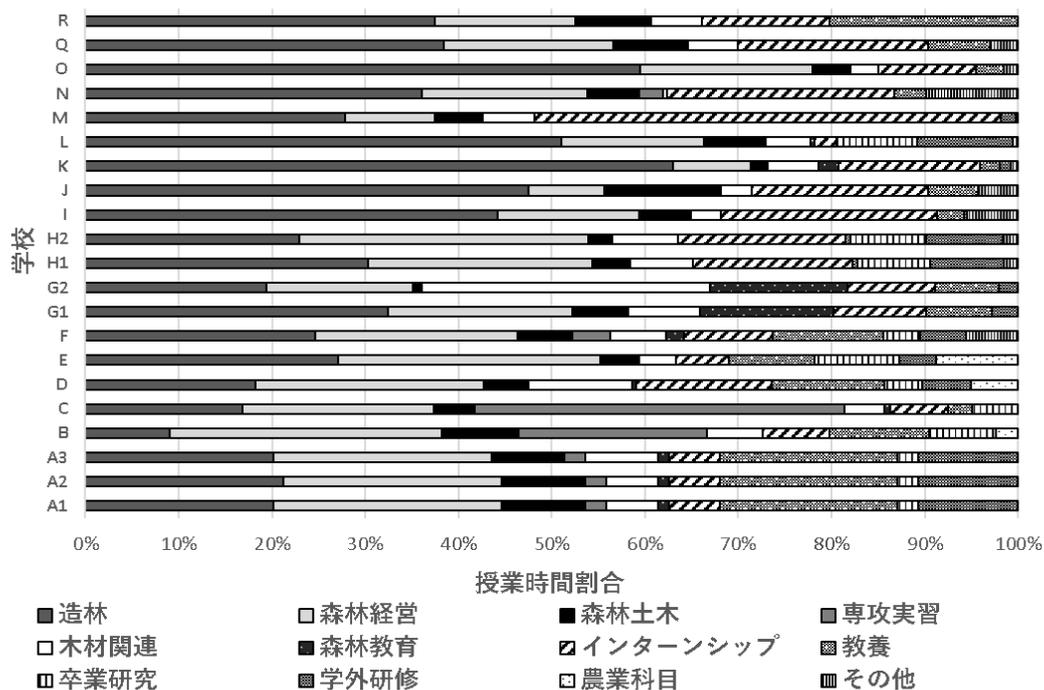


図 3. 教育科目の割合

注：学校によってコース制度があるため「A1, A2」のようにコースごとに分けて記載しています。

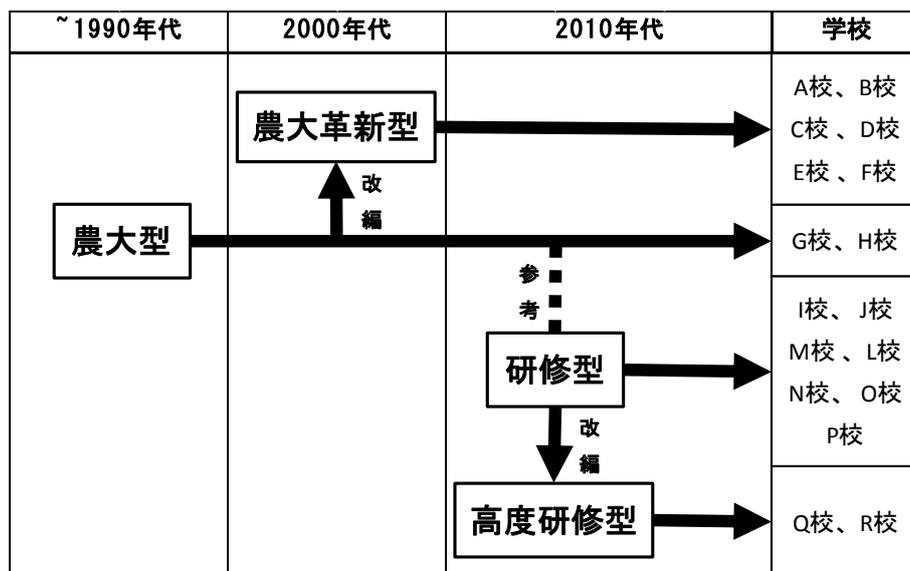


図 4. 林業大学校の多様化

参考文献

- 千代宗平・本間丈瑠「全国の林業大学校学生の意識調査」『中部森林技術交流』2016年，140～144頁
- 小川高広「林業大学校における学生の満足度の規定要因—京都府立林業大学校を事例に—」『中部森林研究』2018年，No. 6，67～72
- 松本武・吉川邦明「岐阜県中農地域の森林組合従業員における森林・林業専門教育機関出身者数」『森林利用学会誌』2017年，Vol. 32，No. 1，37～41頁
- 井上真理子編『「森林・林業教育シンポジウム」森林・林業の専門教育を語る』森林総合研究所多摩森林科学園，2018年
- 林野庁編『平成30年度森林・林業白書』2018年
- 市川圭一『山に教育あり—明日の林業人を育てる』1983年，清文社
- 全国林業改良普及協会編『「定着する人材」育成手法の研究—林業大学校の地域型教育モデル』2017年，全国林業普及協会
- 林野庁「緑の青年就業準備給付金事業の概要」  
(<http://www.rinya.maff.go.jp/j/routai/koyou/03.html> :2018年12月18日閲覧)
- 林野庁「林業技術研修教育機関」  
([www.rinya.maff.go.jp/j/ken\\_sidou/fukyuu/ringyoukyouiku.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/ken_sidou/fukyuu/ringyoukyouiku.html) :2018年12月17日閲覧)
- 小川高広「林業大学校における学生の満足度の規定要因—京都府立林業大学校を事例に—」『中部森林研究』2018年，No. 6，67～72
- 松本武・吉川邦明「岐阜県中農地域の森林組合従業員における森林・林業専門教育機関出身者数」『森林利用学会誌』2017年，Vol. 32，No. 1，37～41頁